

## JTU 第2種公認審判員<認定試験問題の採点と解答の要点>

○金国実施日2012年2月26日

### [1] 採点にあたって

- 1) 1問30点満点で計5問、最高点は150点です。さらに、特別ポイント作文(最高30点)を加えます。
- 2) 記述式問題は、内容を問うものです。多少の誤字脱字は許容してください。また、固有名詞については、まったく別物でなければ許容範囲とします。ルールブックでは「競技者」を正式としていますが、一般的には選手として通用すると考えるものです。
- 3) 受験者はすでに第3種を経た立派な審判経験者です。解答で述べられた審判員の生の声を生かし、不適當な箇所があれば、それを年間の課題として取り組んでください。
- 4) 解答の要点は基本的な事項です。際立った内容であっても、論旨が明快であれば評価するものと考えてください。また、格別にユニークな意見はプラス点を与えるものとします。
- 5) 以上を基本に採点してください。特筆される解答は、広く告知する予定です。本名を出す場合は、本人の了解を受けるものとします。

[2] 次のポイントを考慮し配点をしてください。1問30点を5段階に分けながら、特筆する解答にはプラス点を与えるものとします。

- 1) 理解度：ルールや社会通念に即した内容であるか。
- 2) 表現度：技術的なこと、大会の実情、選手としての経験など表現が豊かであるか。
- 3) 熱意度：トライアスロンと関連複合競技の発展への熱意が感じられるか。
- 4) 充実度：全体の作文量が充実しているか。文書や文字の正確度はどうか。
- 5) 審判適正：審判員としての適正な内容が含まれているか。

問1 JTU 競技規則第2章(競技者規範)の(第7条：基本精神)をもとに、手本となる事例を示してください。さらに違反となる事例を想定し、これを示しながら、対応方法について述べてください。複数の選択が可能です。(30点)

解答の要点) 競技を停止して緊急事態に対応したこと、社会的評価を得られる行為を評価する。転倒した選手を助けた、役員に知らせたなど手本となる事例は多い。競技後に、これらを選択し報告し賛同を受ける意義を知る。

一方、ボランティアに不適切な言動があった、交通規則を守らずに走行したなど社会的評価を下げる行為もある。競技規則は競技中以外でも適用されていることの認識。遠来の選手・審判員と主催地との交流も大事な要素。

問2 JTU 競技規則第5章(競技共通項目)の(第26条：指示・注意)をもとに、これまでの審判経験(見聞を含む)からの事例を示し、どう対応したか、さらにはどう対応することが良かったなどについて述べてください。複数の選択が可能です。(30点)

解答の要点) ルール違反を未然に防ぐこと。そのためには、日頃から選手の言動に注意を払う。また、違反を見つけたら、その場で注意する。審判も選手も同等である意識。注意の仕方の配慮。審判みずからがルールを守る機運をつくる。適切な大会運営がルール違反を未然に防ぐ事例も多い。さらに、万能ではない人間が勘違いや錯覚で意図せずに違反状態となる。審判員が誤った判断をすることもある。

問3 JTU 競技規則第6章（スイム）の（第55条：禁止行為）をもとに、禁止行為を防止するためのスタート地点・コース設定、監視スタッフ、審判配置などの運営面での要点を述べ、さらに、審判として対応すべきことを述べてください。複数の選択が可能です。（30点）

解答の要点）スイムのコース設定の難しさを理解し問題発生を想定する。スイムでのルール違反も設定状況により起こることが多い。気象状況による影響も大きい。これを理解し各状況に合わせた対応策を講じる。

大会区分により審判の動きが異なることを意識する。また、メガフォン、無線など審判関連機器の準備も効果を発揮する。

問4 JTU 競技規則第8章バイクの第89条、（キープレフト走行）をもとに、選手の安全を考慮し、違反を含む各種状況を想定しながら、対応について述べてください。複数の選択が可能です。（30点）

解答の要例）キープレフトが守られないと、後続の競技者の進路を妨げて集団走行になりがちである。これが、ドラフティングを引き起こす。コースの不良個所に気付かずにキープレフトを促し、危険を招くことがある。違反がこうした理由によって誘発されたときは情状酌量の余地がある。

審判員と運営側が情報を共有し、コース整備に努める。さらに選手への注意喚起が求められる。

問5 JTU 競技規則の全般（前述以外）から、自由に項目（複数可）を選び、選んだ理由とその背景などを交え、審判員としての考えを述べてください。選手として審判としての実体験を述べ、分析することもできます。（30点）

解答の要点）ルールは様々な事例に基づいて制定されている。これらのルールの背景には大会での数限りない事例がある。状況説明、選手・審判の感情の変化、各対応、改善への意思。受験者の解答がトライアスロン発展のカギとなる。

#### ◎ 特別ポイント作文

トライアスロンの審判現場で良かったことや困ったことを示し、その理由と「どう対処したか」、また「どう対処すべきであったか」を述べてください。さらに、これらに係るコース設定や運営の改善面からの展望を述べることもできます。（追加点最高30点）

解答の要点）選手から「ありがとうございました」と言われてから、審判を継続する気になった。こういうコメントは少なくない。選手の満足感は審判員も共有している。笑顔は相手に伝わるもの。逆に審判の現場でトイレがなくて困ったという話もある。仮設コースゆえに起こる様々なことが書かれ、その背景が展望として示されていれば良好。 =以上=